

生井地区 持続可能なまちづくりに向けた地域調査 基礎資料

図版集

II 踏査および文献調査による報告

2022年3月

小山市

有限責任事業組合 風景社

本調査における風土の定義

風土とは、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のことをいいます*。

* 菌田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

それは、いってみれば人々が生きる身近な世界、生活世界でもあります**。

** アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

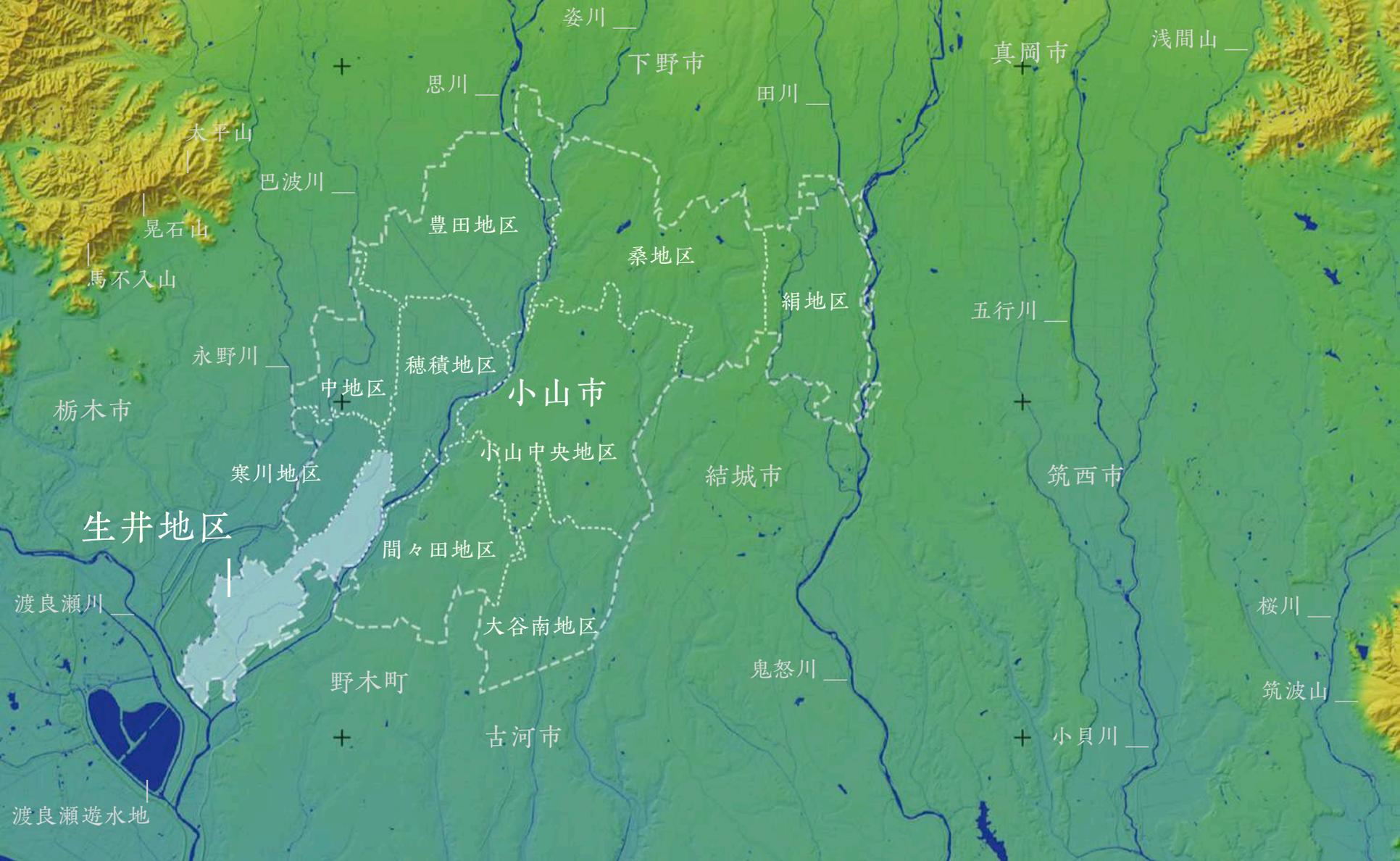
目次: II 踏査および文献調査による報告

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

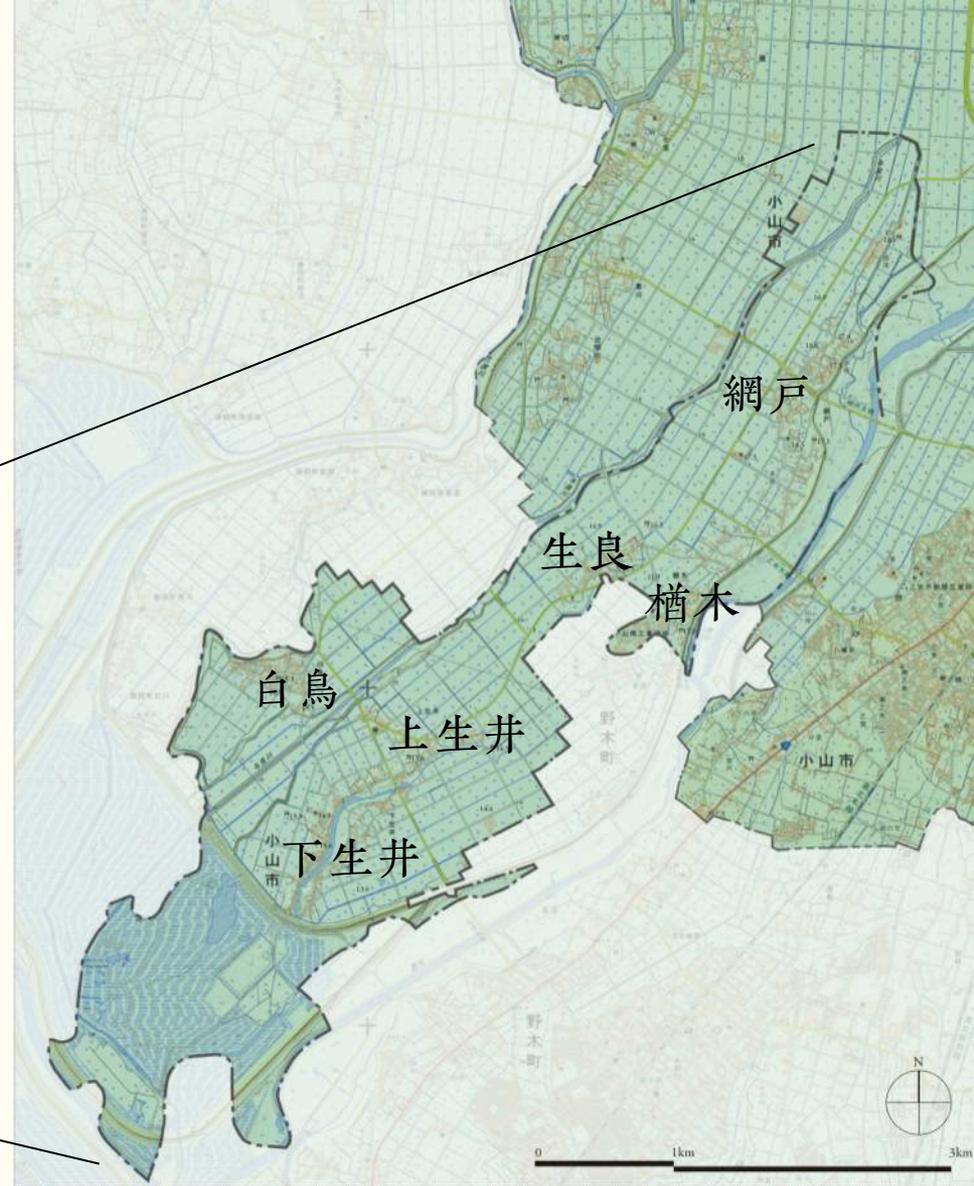
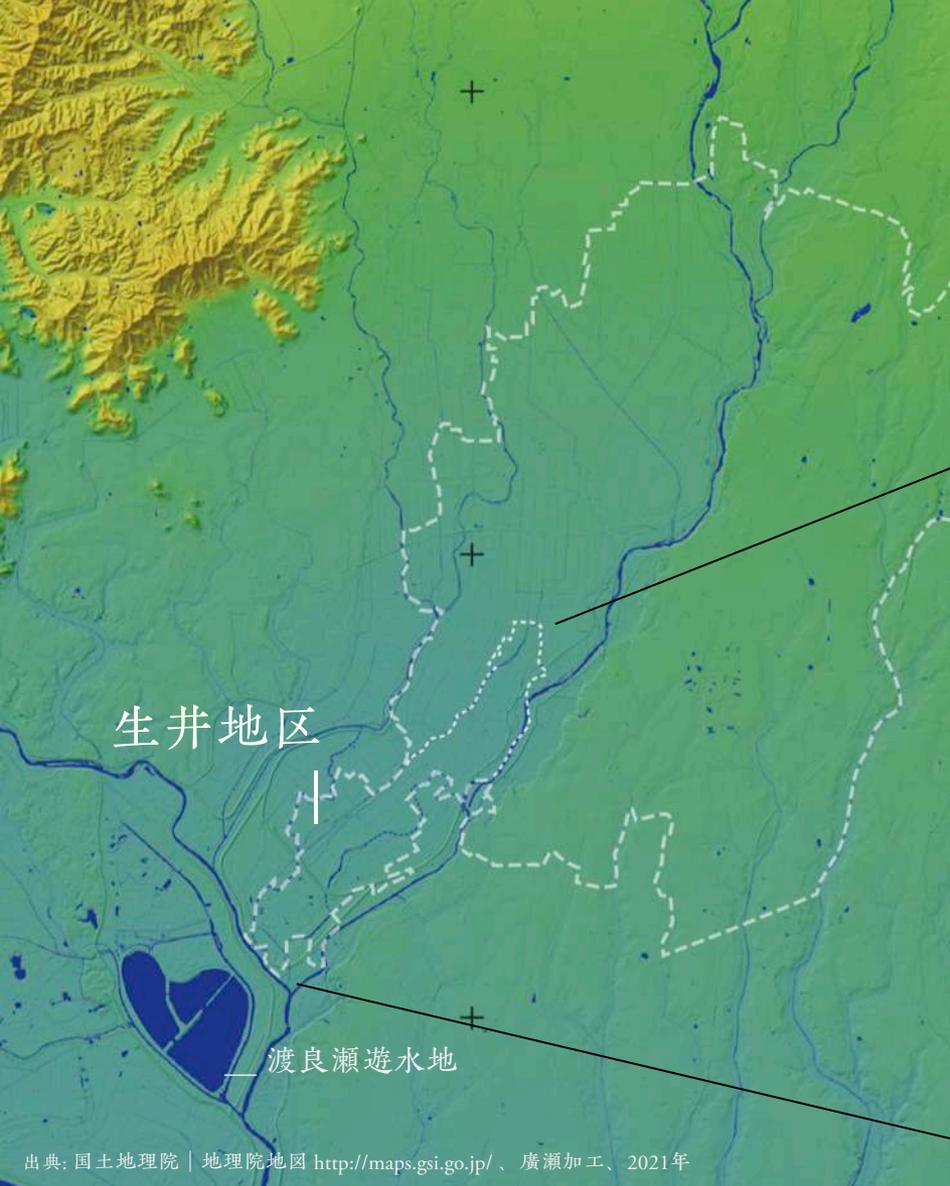
3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の10地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> を廣瀬加工、2021年

生井地区は、小山市の南西に位置します。



生井地区の位置(左図)と地形(右図。標準地図+陰影起伏図) | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> を廣瀬加工、2021年

「生井村は、明治22年(1889)(中略)六か村が合併して」

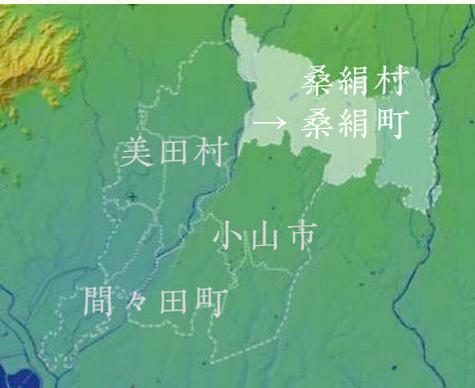


明治22年 (1889) 小山町誕生。
昭和29年 (1954) 大谷村と合併し
小山市に

昭和30年 (1955) 豊田・中・穂積
三村が水田農村建設をめざして
合併。美田村に

昭和30年 (1955) 間々田町と生井
村は合併

昭和31年 (1956) 間々田町に寒川
村が編入



昭和31年 (1956) 桑村と絹村が合
併し桑絹村に。昭和36年 (1961)
には町制施行し桑絹町となる

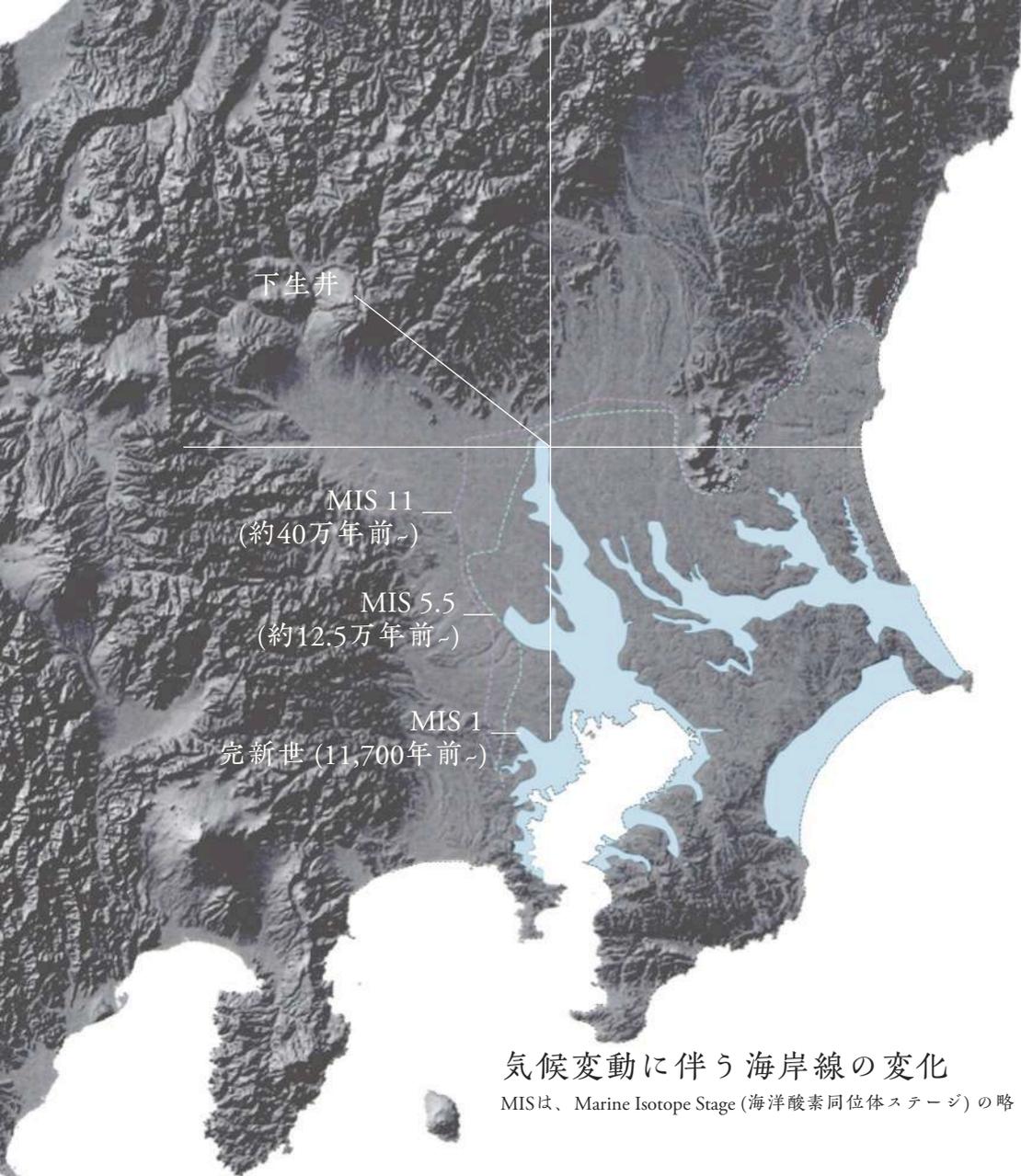
昭和38年 (1963) 小山市に間々田
町、美田村が合併

昭和40年 (1965) 小山市に桑絹町
が編入。現在の市域に

小山市域の変遷 | 出典: 小山市教育研究所編 『小山の自然と社会』 小山市教育委員会、1965年、総158頁

生井村は、間々田町との合併を経て小山市に。

出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> を廣瀬加工、2021年



気候変動に伴う海岸線の変化

MISは、Marine Isotope Stage (海洋酸素同位体ステージ) の略

「下生井小学校を
改築した際に (中略)
地下170mまで
ボーリング地質調査」

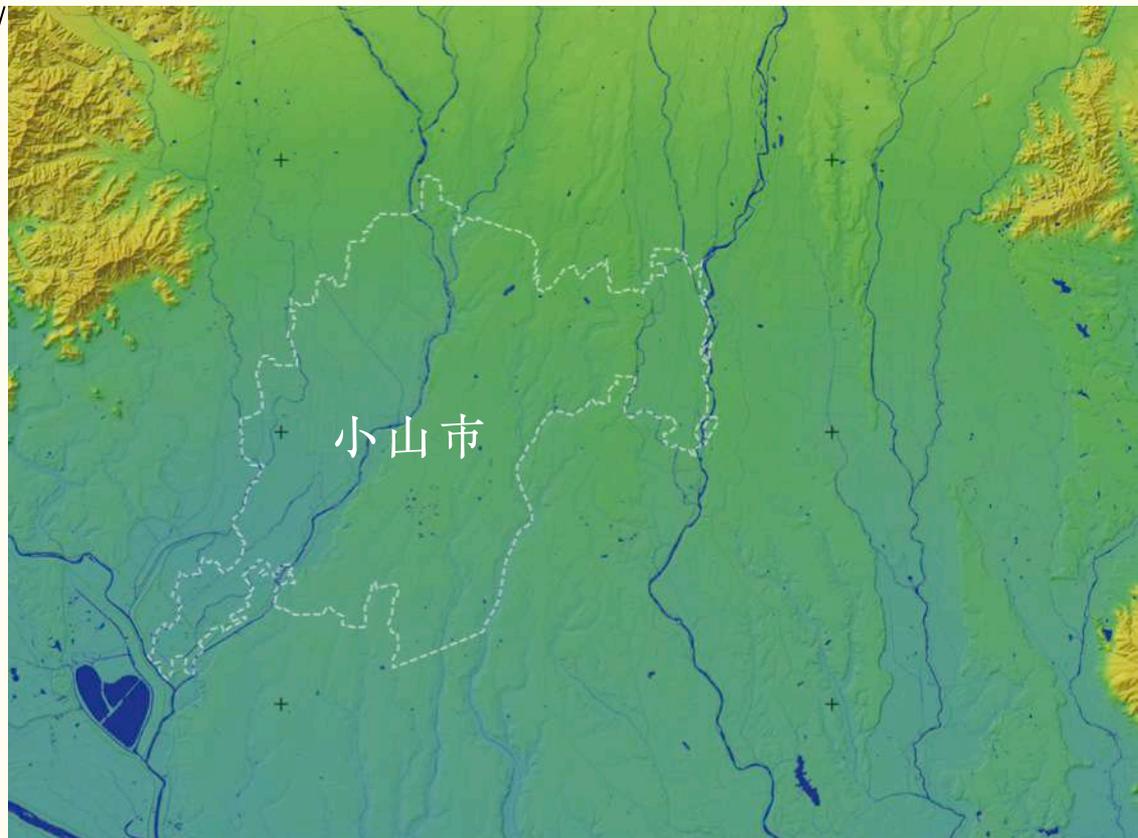
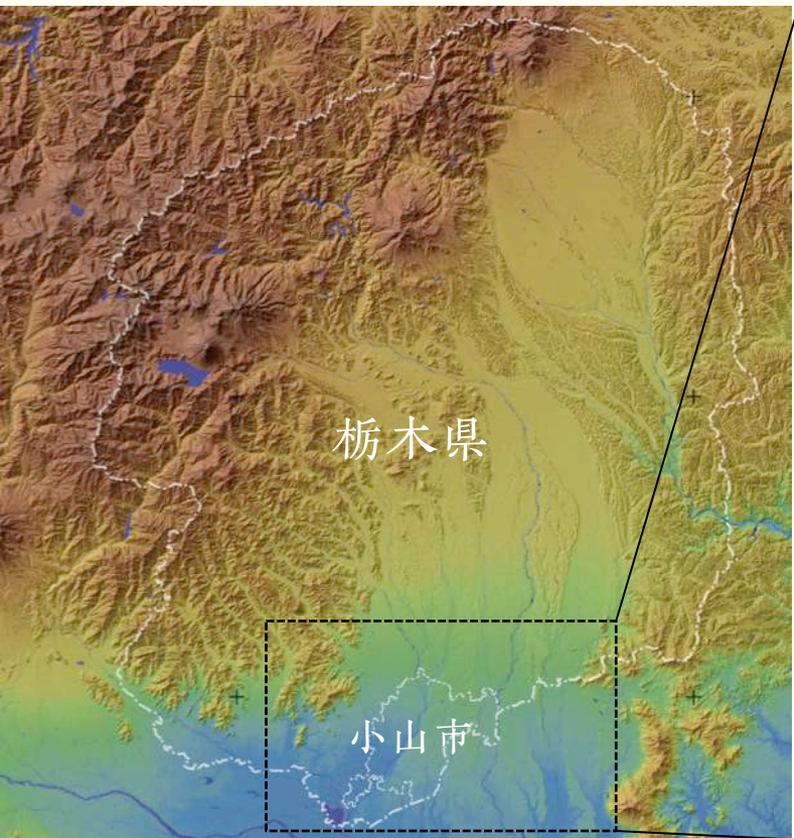
「砂利、砂、粘土層が
交互に重なって」

「地表から約20m付近の
深さのところには
貝を含んだ層が」

出典: 小山こどもの森 | 地形の成り立ち |

低地性扇状地と三角州

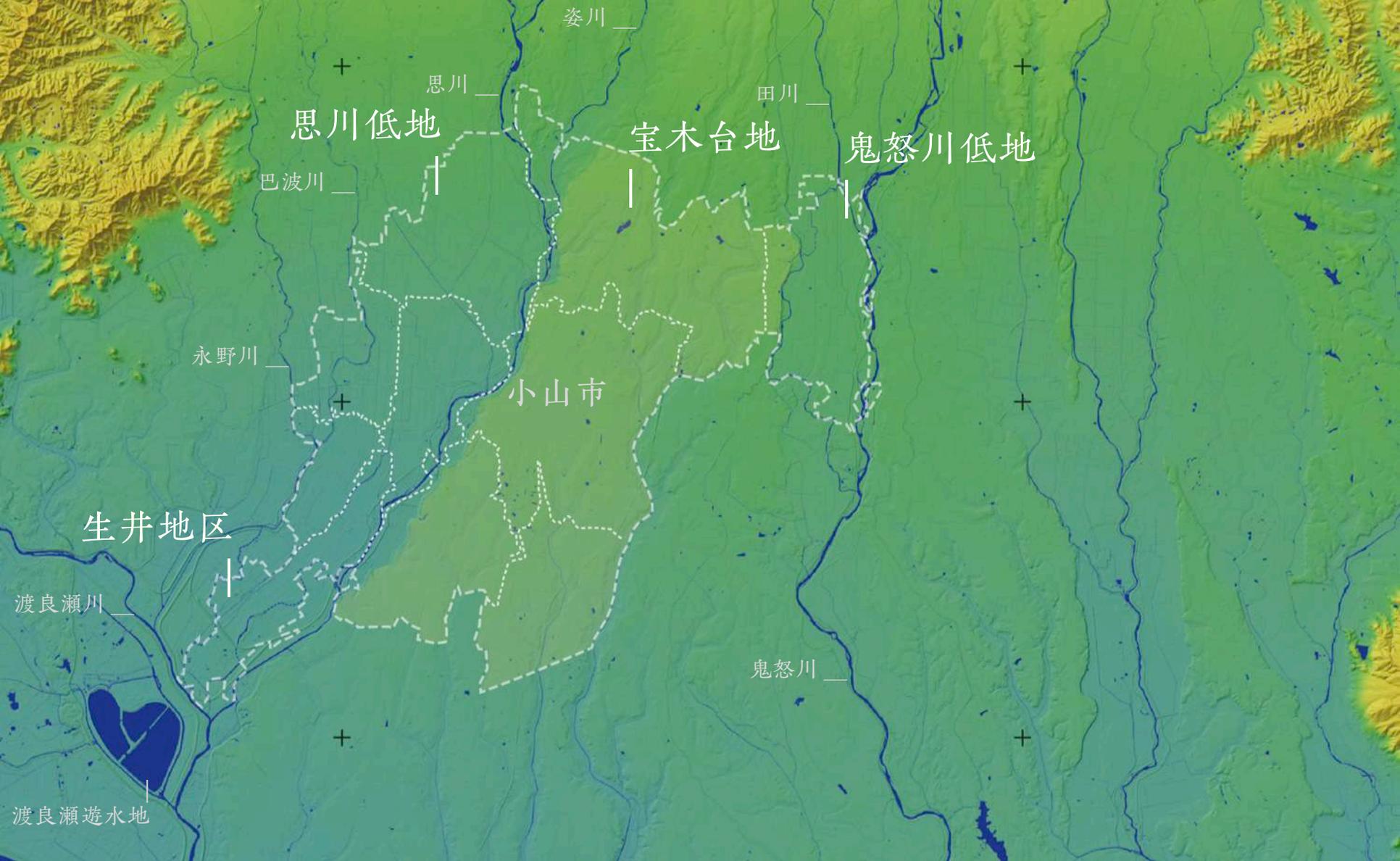
<http://www3.oyama-tcg.ed.jp/~shimonamai/kotyositu/chikei.html>



栃木県の地形と小山市の位置 (左図)*

栃木県南部の地形と小山市の位置 (右図)*

「栃木県は地形的に見ると東部の比較的低い山地、
中央部の関東平野、北部から西部のけわしい山地に
大きく分けられます」**



小山市域の地形区分 | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> を廣瀬加工、2021年

宝木台地の東西を思川、鬼怒川低地が挟む地形。



栃木県内の年平均気温、1月平均気温と常緑広葉樹林の分布 (出典は下記)

スダジイ林は年平均気温が13-14°C、
 1月(最寒月)の平均気温が1-2°Cを分布の北限に。
 (小山域もこれに該当しスダジイ林が分布。暖温帯気候下にある)



間々田地区

乙女大橋

生井地区

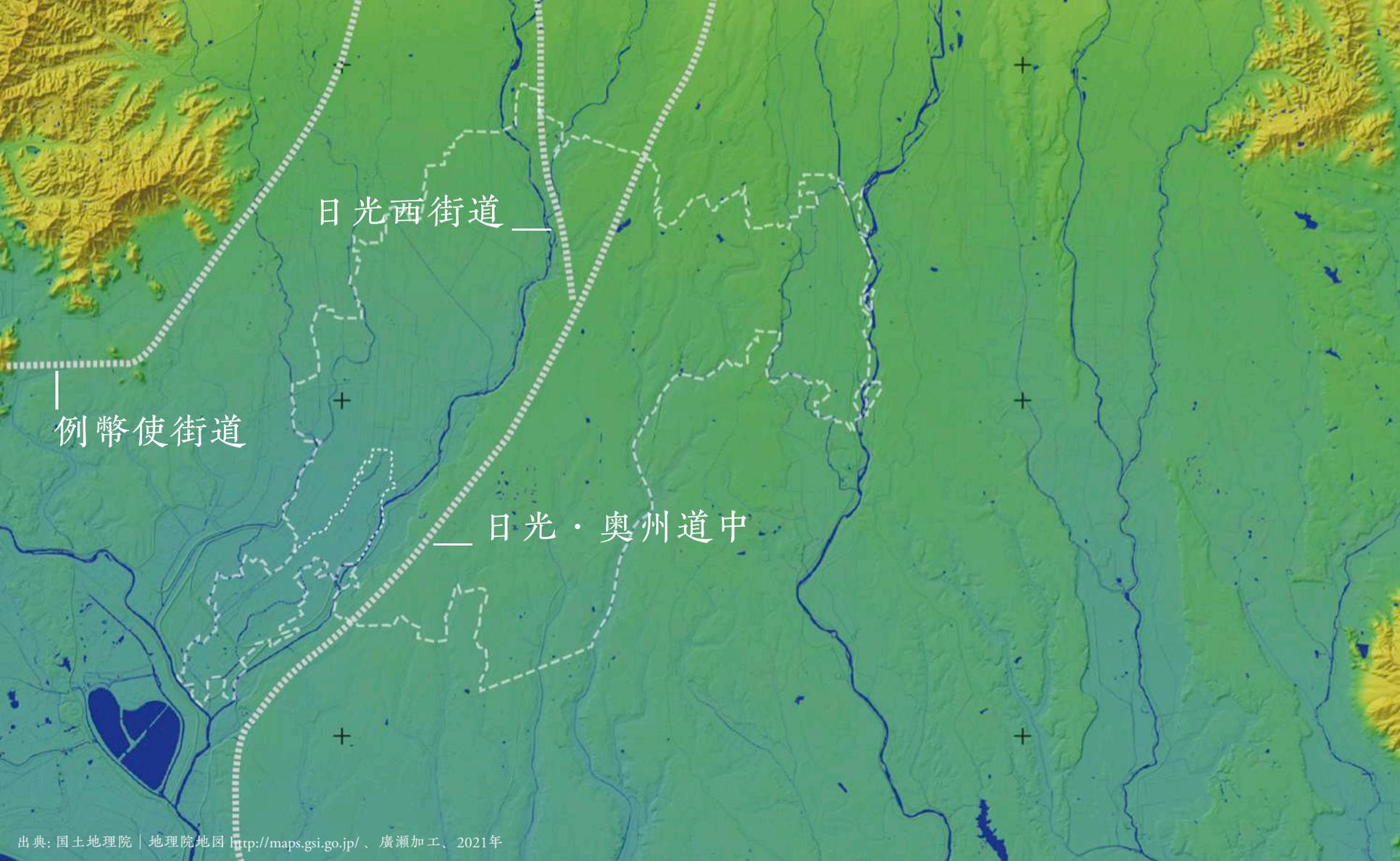
思川

網戸大橋より乙女大橋を望む。間々田(間々田地区) — 思川 — 網戸、生井地区2021/10/05

「中学校の通学(中略)行ったらうちらだけカッパ着て」
「そろそろ。天気が違う」「生井あるあるだよね」
「川で変わる」。地区で微気象が異なることについての話題より

踏査および文献調査による報告

1. 地域の自然について
2. 地域の自然への人の働きかけについて
3. 地域と人々の心身の結びつき
4. 景観から読みとれるその他のこと



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>、廣瀬加工、2021年

主要街道の分布 | 出典: 奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977年、総168頁

「栃木県の東部山地と西部山地との間の中央低地は」

出典: 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、総158頁



出典: 野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000年、総349頁。廣瀬加工、2021年

* 阿部昭・橋本澄朗・千田孝明・大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998年、総384頁 ** 『第123回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019年、総111頁

「古来日本列島の主要な縦断交通路となっていた」***

「市の西南部 - 寒川・生井地区は、水郷地帯」***

*** 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、総158頁

BC M 159A 5 8 JUNE 46 27 不許複製 建



生井地区空中写真、1946/06/08 出典: 国土地理院 | 空中写真閲覧サービス <https://geolib.gsi.go.jp>

「思川は、(中略) 低地性扇状地を形成し (中略) 網戸地区はこの扇状地の扇端部に位置 (中略) 今から50年ほど前までは井戸を掘ると被圧された伏流水が湧き出る自噴井が多く (中略) 下生井地区でもわずかですが (後略)」

出典: 小山こどもの森 | 地形の成り立ち | 低地性扇状地と三角州 <http://www3.oyama-tcg.ed.jp/~shimonamai/kotyositu/chikei.html>

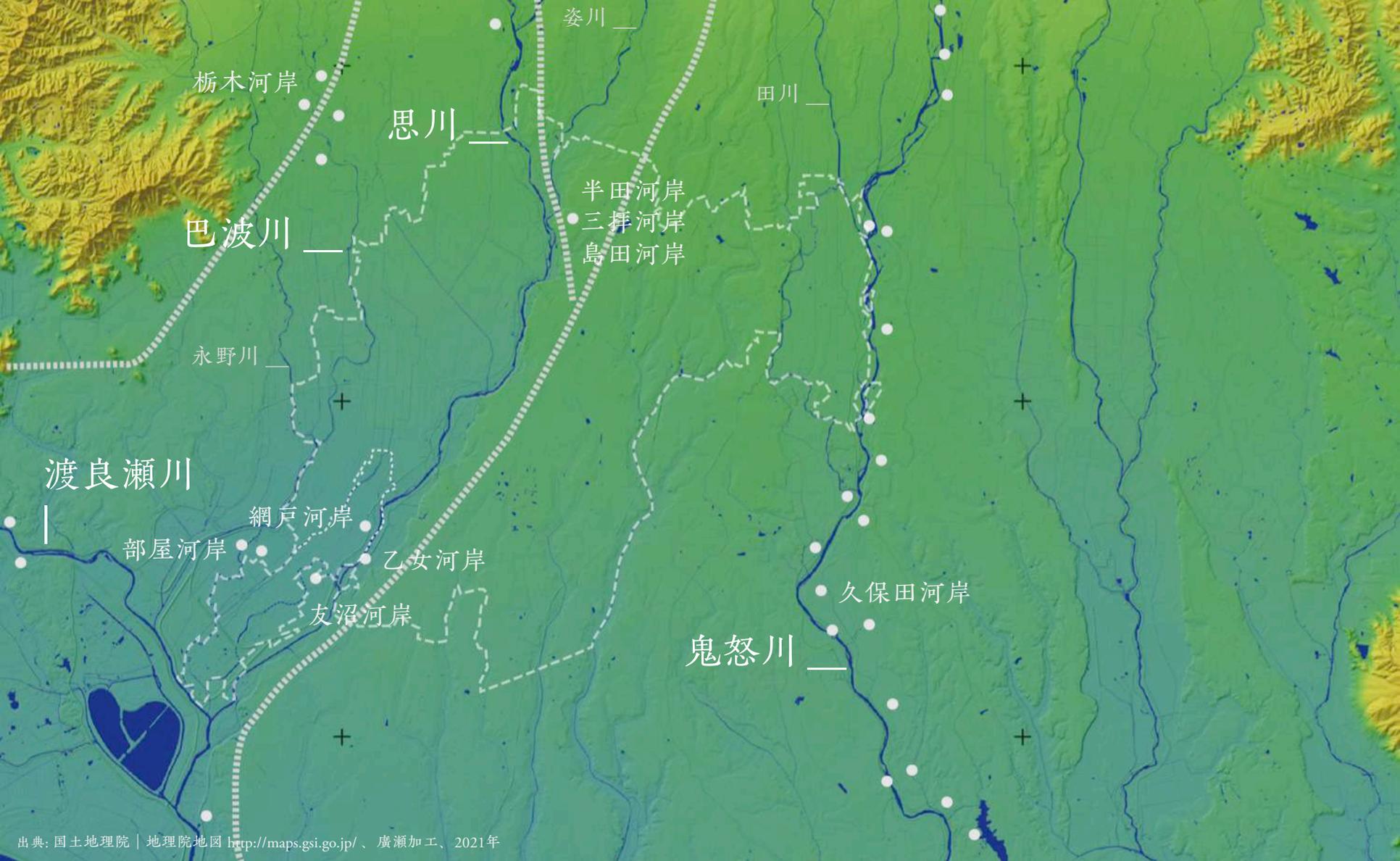


藤塚古墳の上になつ浅間神社。網戸。2021/06/23



生井地区(網戸) 空中写真、1946/06/08 撮影

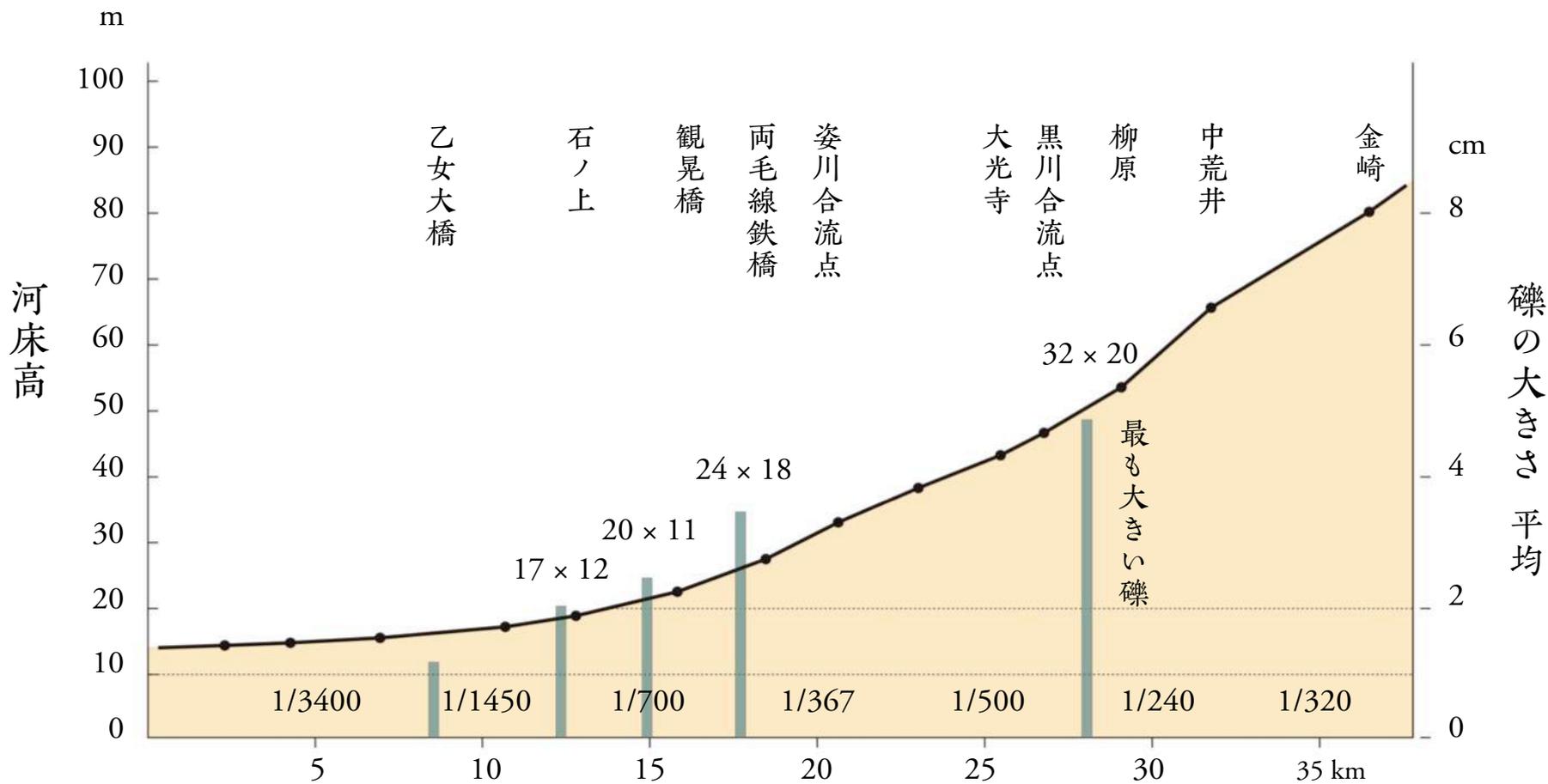
思川低地では、市域北部の大本、中南部の下泉と寒川に古墳群が立地する。寒川古墳群に隣接して網戸田辺遺跡、その東側に藤塚古墳が位置する。



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>、廣瀬加工、2021年

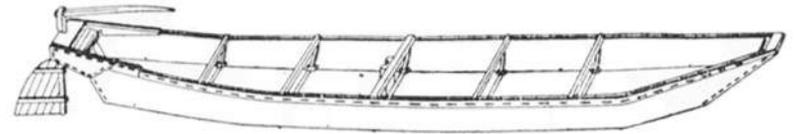
渡良瀬川、巴波川、思川、鬼怒川の河岸の分布 | 出典: 奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年、総376頁

「内陸では川や湖も、道路とともに交通路に利用」



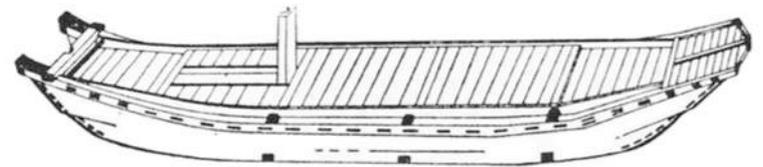
出典: 小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』6、小山市教育委員会市史編さん室、1984年、28頁(廣瀬写図、2022年)

「河床の傾きは、金崎から黒川合流点までが大(中略)
乙女大橋からはほとんど水平な面になっている」



べが(か)ぶね
部賀舟

「乙女・網戸・友沼河岸は、下流からきた荷物をさらに上流の浅い河川にあった部賀舟につみかえる中継積換河岸として(後略)」



ぼうちょうたかせぶね
房丁高瀬船

「乙女より下流(中略)房丁高瀬船(後略)」

出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>、廣瀬加工、2021年

思川沿川の河岸の分布*

思川舟運で使われた部賀舟と房丁高瀬船**

「思川は、乙女附近を境にして上流は傾斜が急で」*

* 奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年、総376頁

** 奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977年、総168頁



思川を利用した桑の葉の運搬 (明治45年、1912)



現在の旧思川。2021/09/15

「明治19年 (1886) に東北本線が開通するまでは
東京-網戸間に蒸気船が往復 (中略) 『小湊ノ如キ感』」
「下生井村も (中略) 栃木道が通り、思川に渡船場が」



下生井櫻源寺境内に開校された下生井小学校の前身「扶桑館」(明治41年、1908)

現在の下生井小学校周辺。2021/06/23

「穀物の仲買人は、網戸河岸の北西に広がる
水田農村を後背地として商売をおこない、蚕種の
行商人は当地の畑作農村で展開した蚕種業に(後略)」

川沿いの自然堤防から離れて
微高地が分散

後背湿地

巴波川、思川沿いに
連続して形成された
自然堤防が主体に

「明治19年(1886)(中略)

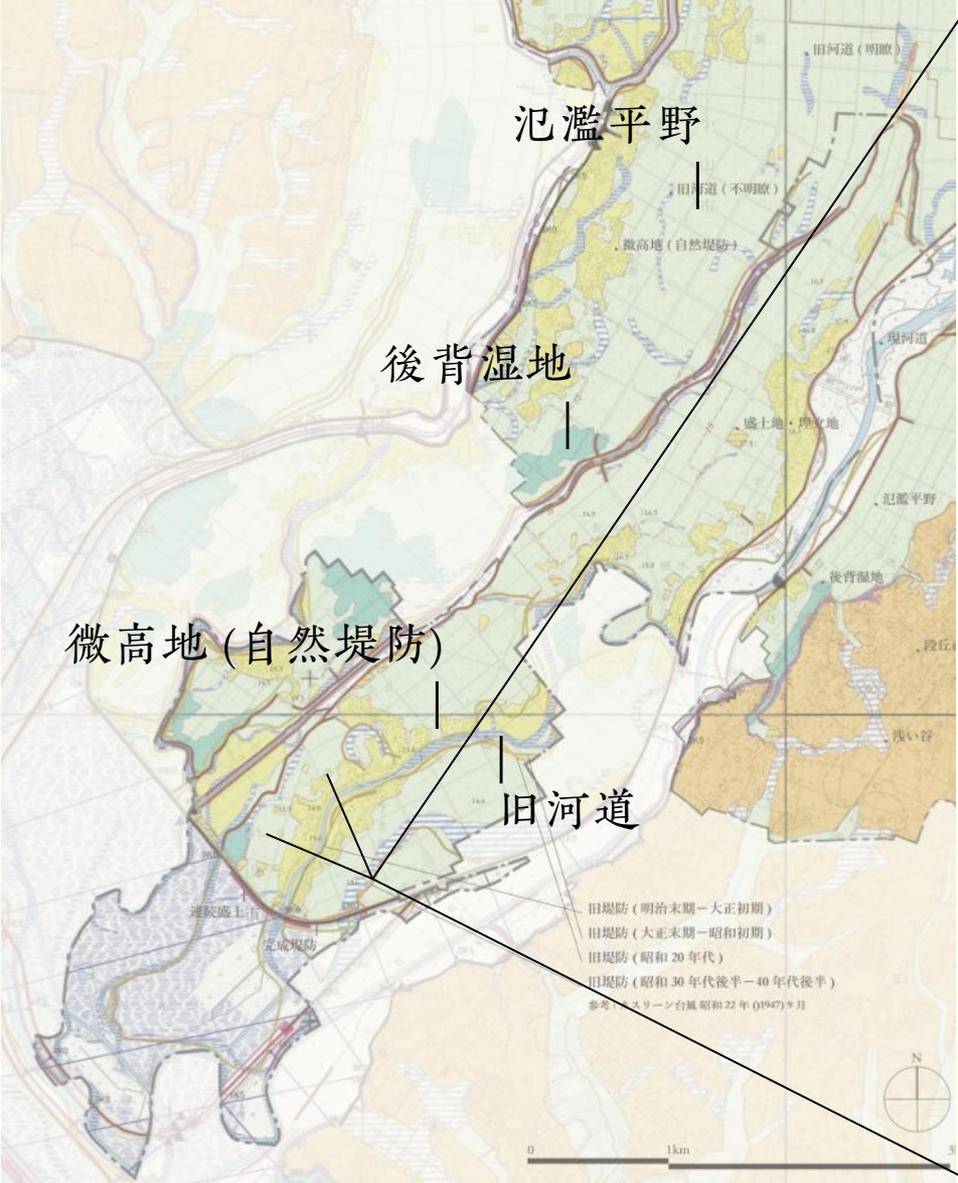
田が30.7%、畑が41.8%と、
畑の多い村で、それに原野が
18.9%を占めていた」

「巴波川と思川が合流する(中略)

合流点の近くと
網戸付近の思川沿いには、
桑畑もかなり展開していた(中略)
畑地や桑畑となっている所は、
思川や巴波川によって形成された
微高地である」

「原野はくぼ地にあり、そこは、
洪水の時には遊水池となり、
洪水の調節機能を果たしていた」

出典: 小山市編さん委員会編『小山市史 通史編 III
近現代』小山市、1987年、179頁(総1080頁)

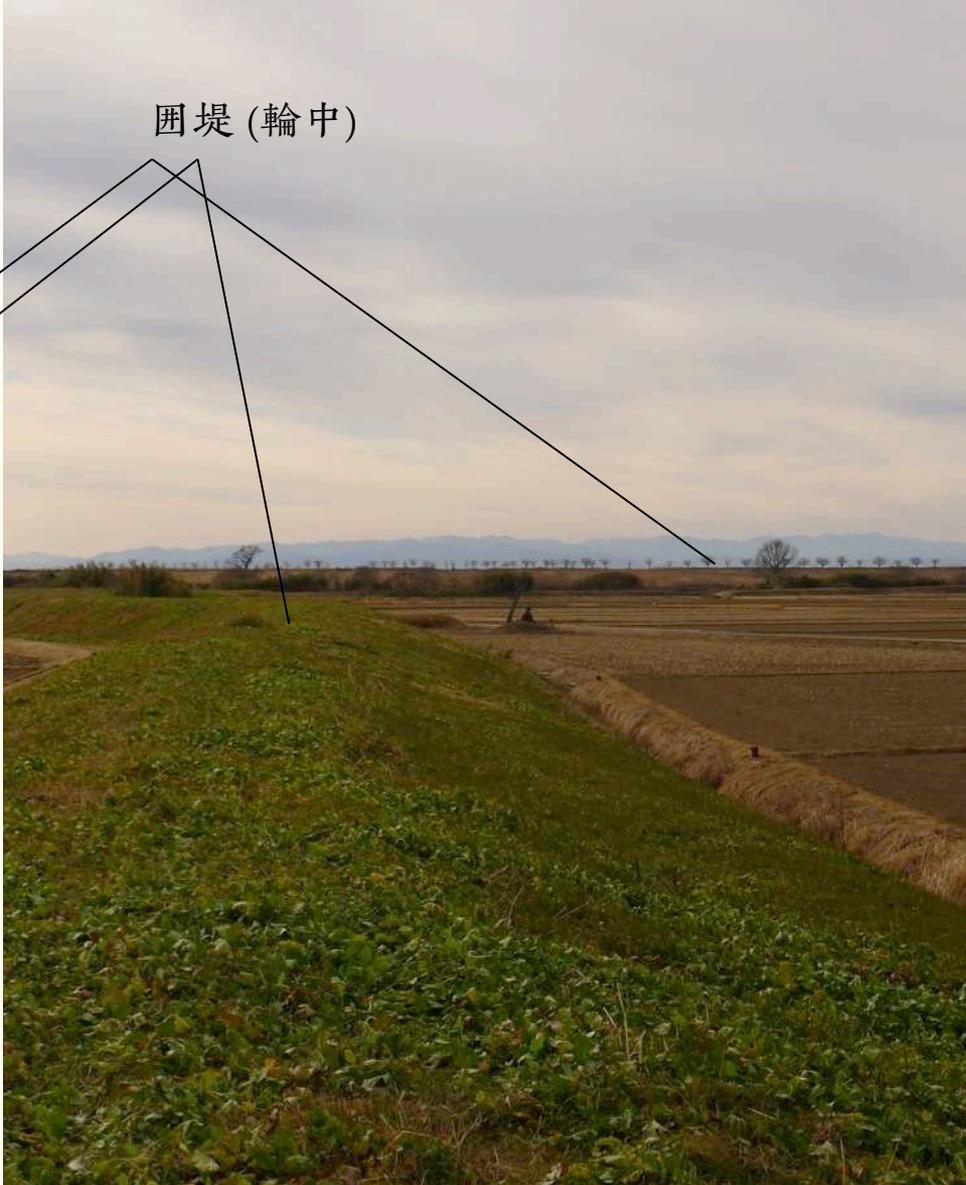
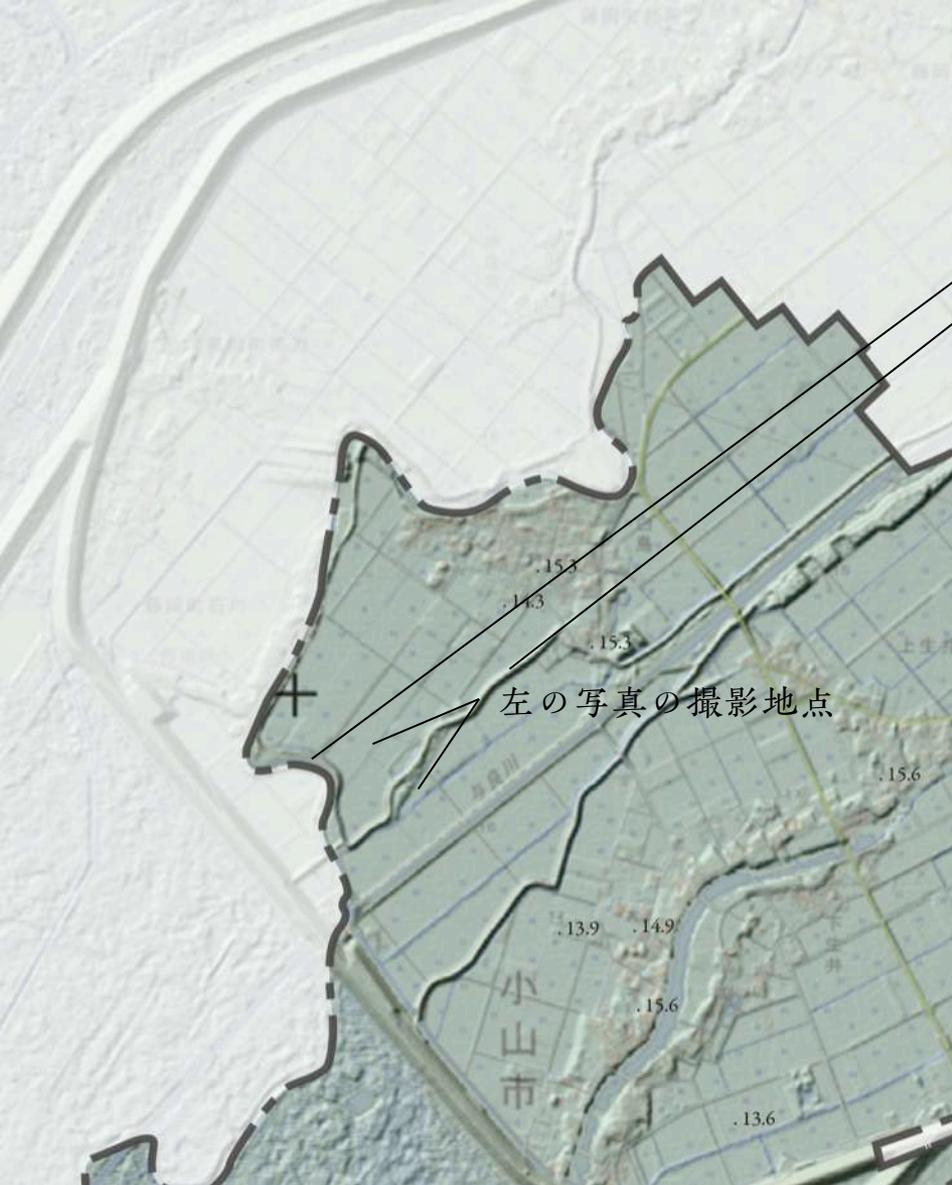


治水地形分類図 (生井地区)



上生井、生井地区。2021/06/23

基本的に、先人は川がつくった地形に合わせて...



輪中堤の位置と写真右の撮影地点 (色別標高図・陰影起伏図)

輪中堤 (部分)。白鳥、生井地区。2021/01/15

微高地 (自然堤防) 上に居を構え、堤防を巡らせ、



屋敷林



「遠く三国山脈を
越えてくる乾燥した
強い西風が吹く」
「家の北から西にかけて、
屋敷林(防風林を)」

左写真の屋敷林
これに続けて、
集落西側に
樹林帯が
設けられる

網戸地区屋敷林。2021/06/23

生井地区(網戸) 空中写真、1946/06/08 撮影

強風へ備える他に
敷地に入り込む水の勢いをやわらげる
樹林帯をもらけ、



— ヒサカキ、
シラカシ、
アズマネザサ、
アオキ等が
混生した生垣



— 陰樹アオキの生垣

— 河川後背地の地盤が
周囲より低い箇所に
土塁を設ける

微高地から低地へ下りる道沿いの生垣。生良。2021/09/21

河畔林と土塁、生垣。下生井、生井地区。2021/08/03

微高地とはいえ洪水の時に
浸水被害に遭うことへの対応も。
生垣も、水流をやわらげつつ流木等を捕捉する。



水塚

個人宅敷地に残る水塚、上生井。2021/06/23



連続した
自然堤防

独立した
自然堤防

独立した自然堤防上に構えられた個人宅、生良。2021/09/21

また、避難、食料などの備蓄、
収穫物を守る目的で敷地内に土と盛った上に
小屋を建てる「みつか/みずづか水塚」をつくり、



左から上生井 (2022/01/19) と白鳥 (2022/01/17) のそれぞれ個人宅で保存される揚舟

あげぶね

水害時の移動に使う「揚舟」を
納屋の天井などに吊って水害に備えた。

踏査および文献調査による報告

1. 地域の自然について
2. 地域の自然への人の働きかけについて
3. 地域と人々の心身の結びつき
4. 景観から読みとれるその他のこと



網戸、生井地区。2021/08/18

思川や巴波川が足尾山地から運び下ろした土砂が思川低地をつくった。
「次に私たちの祖先が千数百年かけて水田にするため平らにしてきた
—つまり川之力と人間の力の見事な合作で生まれてきた
平らな広々とした低地とってよいでしょう」。



白鳥集落センター。白鳥、生井地区。2021/06/23



集落幹線道路。生良、生井地区。2021/09/21

田園の微高地にかたちづくられた集落の中に、
人間的な趣の醸された人々の生活空間がある。



下生井公民館

長盛橋 →

旧思川の橋詰(長盛橋)の辻。下生井、生井地区。2021/08/03



↑
太平山道

上生井、網戸へ →

追分口。下生井、生井地区。2022/01/19

通過交通の進入はほぼない集落幹線道路の交差点、
分岐点は、小さな広場のような性格も持つ。

太平山



男体山



大真名子山



女峰山



太郎山 小真名子山



太平山ごしに日光の山々を望む、網戸。2021/08/18

日光街道の野木宿から例幣使街道へ通じる「日光山近裏道」が、
下生井、白鳥を抜けている。下生井の追分口に建つ道標には、
「是より左太平山道」と刻まれる。これは、「太平山神社への
参詣の道標としての性格が強い」がゆであるという。

にっこうさんちかうらみち

おおひらさんみち



八幡宮のお札

幣束2本

「辻固め」

「地区の村々の中には、
毎年8月初めの
日曜日に、
他の村との境目に、
神社のお札や縄に
幣束を付けた
青竹を刺し、
村に災厄が
入らないように (後略)」

出典: 小山こどもの森 | 渡良瀬遊水地学習コーナー
地域の暮らし (民俗) 2021年

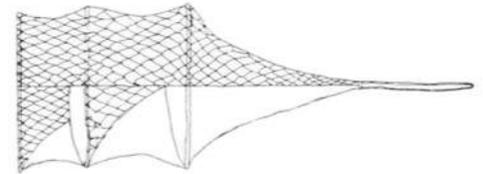
<http://www3.oyama-tcg.ed.jp/~shimonamai/kotyositu/chikei.html>



水神宮、榎木。2021/06/23



ザンブリ
(全長105cm)。
水上から魚にかぶせる。
マダケ、アズマネザサ、
木綿糸を材料とする



アミウケ (全長81cm)。
旧巴波川、旧思川などで、
4月-5月上旬に川辺へ仕掛け、
産卵に寄るコイ、フナをとる。
材料はマダケ、ミズイト



ウナギウケ (全長68cm)。
川縁、浅瀬で口を川下へ向け、
餌を入れてウナギを誘う。
材料はマダケ、シュロ縄

白鳥で用いられた漁具の例。出典：『下野の漁撈習俗』*

「水神の指す方向は堤防の切れ所などが一般的」**

「水神宮の祭り (中略) この日は大杉さまとも」**

「魚とりの守護神はほとんど水神であるという」*



栃木市藤岡町との境界から小山市中心市街地の方向を望む、白鳥。2021/09/15

「私は外から来たけれど、子供たちはここ育ち(中略)
『稲の色が変わってきたね』『秋になるのかな』」



ヌマガエル (写真左。国内外来種)とクヌギの枝にとまったアマガエル (同右)。白鳥八幡宮。白鳥、生井地区。2021/06/23

「トンボが変わったねとか。カエルが生まれたんだね。
これから雨が降るのかな」。

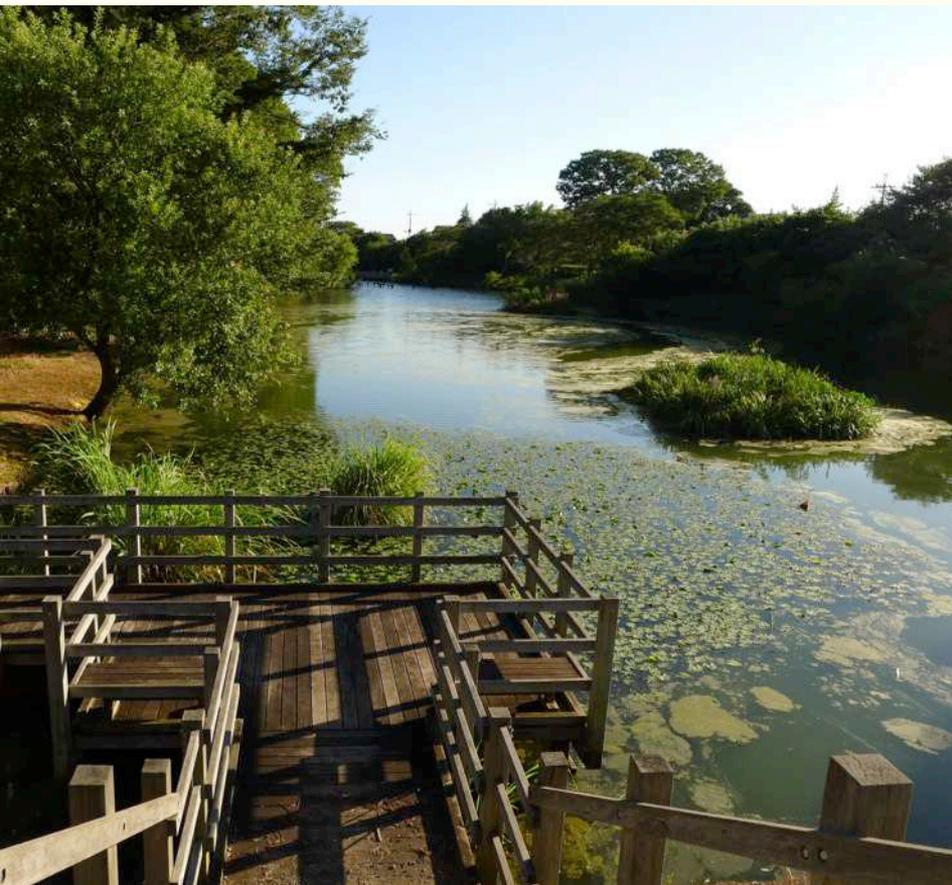


富士山を望む。白鳥、生井地区。2022/01/15

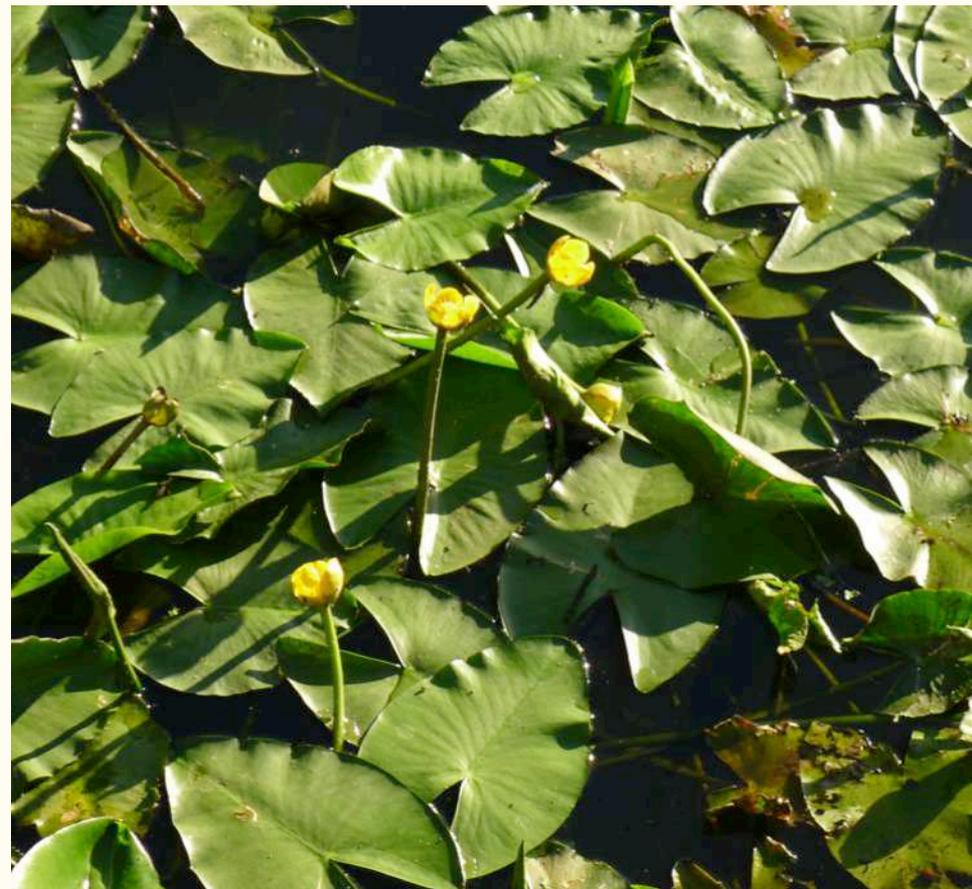
空気が澄む「冬になると富士山が見える。
子供も、そろそろ富士山の季節だねと言ったり」。

踏査および文献調査による報告

1. 地域の自然について
2. 地域の自然への人の働きかけについて
3. 地域と人々の心身の結びつき
4. 景観から読みとれるその他のこと



なまいふるさと公園/旧思川。2021/08/03



コウホネ、なまいふるさと公園/旧思川。2021/08/03

旧思川では、水は止まり、栄養過多に見えるが、
コウホネが一部に生育する。



ミズワラビ
またはヒメミズワラビ



ミズワラビまたはヒメミズワラビ、上生井。2021/09/21

上生井、右手の道は神明社前に続く。2021/09/21

風害や水害への備えとする木々が囲む集落内部に、
人が植えた植物と自然に生える植物が植生をなし、
植生は動物や微生物の生息・生育の空間になる。

注: ミズワラビは、関東地方では東京都で絶滅。埼玉県と神奈川県で準絶滅危惧種に指定。栃木県では近年増加傾向にある。減少の原因は、農薬の使用等と考えられている



生井桜つつみより渡良瀬遊水地を見下ろす。2021/06/23

コウノトリ。下生井、生井地区。2021/06/23

渡良瀬遊水地に隣接し、次のような問題への対応の継続も求められる。「水田の圃場整備は、水田を利用する多くの生物に負の影響を(中略)狭い行動圏の種や、水田生態系の上位種で育雛期には大量の水棲小動物を必要とする(中略)コウノトリ、サシバなどへの影響は大きい(後略)」